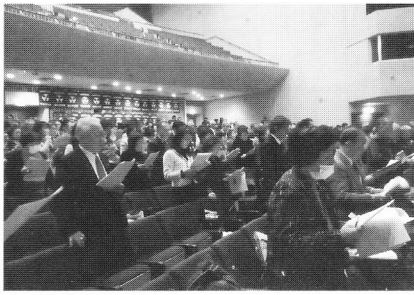


去る平成二十三年十二月二十五日・二十六日に地元静岡開催の全国珠算研究会が行われました。実は恥ずかしながら研究会は初めての参加でした。今回は一年に三度目のそろばん静岡への原稿の依頼を受け、教養講座、前夜祭、研究会としてかりと勉強？のみならず、ちゃっかりと？ ネットワーク作り！をさせていただきました。順を追って振り返ってみたいと思います。

【教養講座】

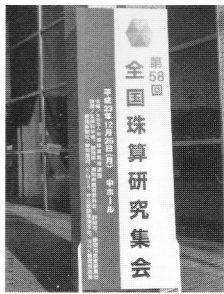
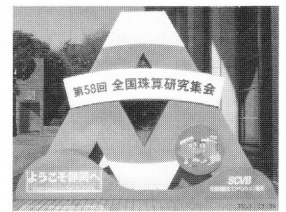
講師は珠算史研究会会長の太田敏幸先生（以下、太田先生と略）です。今まで太田先生との接点がなく、さらに演題が「どのように使ったの？五珠2つそろばん」と不慣れなそろばんを題材としたものであったため、私自身が少々身構えた形での開始となりました。ところが、太田先生のお話のスタイルがとても楽しく、太田先生ご自身の「そろばんが好きでたまらない」お気持ちがとてもよく伝わってきてリラック内容としては、案の定、ついつい普段使っ



ているそろばんのイメージが出てきてしまい、頭の切り替えが ついて行きませ ん。生徒には「あ ると思え、交換 だよ」との言葉 はそのまま私に 響き……。そんな 中でも私の導入 の説明上、ピッ

第58回 全国珠算研究集会 静岡県で開催

静岡地区 鐵 貴 子



タリのものであったので紹介いたします。5+8です。私の教室では、5に8を足す場合、「8を5と3にバラバラにして、3は入れるけれど、5は入れないから5と5で10に行くよ」との論理を使います。これが五珠2つのそろばんを使うととてもわかりやすいのです。前日にその指導でとまっていた生徒がいたこともあり、その場で授業に走っていきたくありません。

興奮する気持ちを抑えようとしていたところ、帰除法の説明となりました。こちらはわりさんの直接法(8÷2であれば、8のすぐ隣に4、18÷6は18の1を3に替えて8だけ引く)のイメージです。以前、帰除法やわり九九の説明を受けた時にはチンブンカンブンだったのですが、今回は直接法を理解しているのです、すんなり入って行くことが出来ました。現在、かけ算に両落とし算法を使っているためか、立商位置の指導に苦労することが多く、最も典型的な間違いが105÷3=305になるものです。おそらく、今、「うんうん、そうそう」と頷かれた先生方が多いでしょう？実は、帰除法(直接法)は、この間違いをグンと減らせる

とは思っています。「3級の小数の考え方もかけ算とわり算をそろえることができるのよね：かといって全員導入は難しいですよね：」と、近くで受講(兼？カメラマン)の中遠地区の高梨和司先生と五珠2つそろばん片手に盛り上がりました。太田先生が「速算には使えないが、珠算人の教養として取り組むべき」とおっしゃり、理解が難しいものもあった中、うまくならなくてよいという言葉にも救われましたが、いやいやどうして、指導に活かせるものもたくさんあると再認識いたしました。



また、江戸時代からのそろばんを使う算法は、解説がない口伝となっているものも多く、テキスト作りにも励まれたお話

が一番心に響いています。博物館の学芸員へのワイロがわり？になるだけでなく、やはり、テキスト作りをすることで、自分の考えを整理して伝えていくことが、指導者として必要な心構えだと痛感しました。簡単そうでなかなか実践できず、言い訳ばかりですが、今後も珠算指導者のみならず教育者としての視点を持ち指導していくことが、今回の太田先生の講座への恩返しとなることでしょう。

【前夜祭】

教養講座終了後、顔や手足が凍りそうになりながら自転車をこぎ、前夜祭の会場、センチュリーホテルへと移動しました。受付でもやはりハプニングは多々あり、開始直後もドタバタ：走り回っていて、ただでさえ身体の大きい私、皆様に目障りだったかと：恐縮です。

着席後、やれやれと感じる暇もなく食事をいただきながら、同じテーブルの沖繩県、広島県などの先生方とのお話が弾みましました。一段落したところ、今度はお酒を片手に、お世話になっている先生、交流のある先生のところへ行ったり来たり!! 注いでい